

序章 はじめに



1 計画策定の意義

高度経済成長以降、都市部の急激な開発により身近な花と緑が失われたことから、これまで本県では緑化率の向上に向けた政策を展開し、一定の成果を上げてきました。

近年では、生活にやすらぎやうおいを求める人々が増加し、質の高い暮らし空間への緑化ニーズは、以前より高まりを見せています。また、直近では、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を控え、国内外からの来訪者の増大が期待される中、人々を花や緑で迎える、おもてなしの空間創出も必要です。

このような社会背景から、今後は、従来の花と緑の量の確保に加え、高い技術やデザイン力により、それらの美しさが一層引き立つ良質なまちづくりが求められており、まちを形成し、緑化活動の主体となる人づくりは、最も重要な要素となります。

静岡県総合計画の基本理念の実現に向け、「和」や「美」を尊重し、本県ならではの花と緑が映える暮らしの空間を創出するため、今年度誕生した新生静岡県グリーンバンクと協力し、新たな緑化推進計画に基づき、社会総がかりで静岡県の緑化を推進していきます。

2 計画策定の経緯 ～過去の緑化推進計画の特徴と成果・課題～

(1) これまでの緑化推進計画の取組

高度経済成長以降、都市部の急激な開発により身近な花と緑が失われた状況を踏まえ、本県では、平成元年度に「静岡県緑化推進計画」を策定しました。

第2回改定の緑化推進計画までは、「公共的施設の緑化率と緑化面積」を指標に掲げ、緑化木の生産及び配布、公共施設における緑化工事などの施策を展開した結果、公共的空間における緑の量は増加しました。

公共的施設の緑化率と緑化面積の推移

	緑化率 (%)	緑化面積 (ha)	敷地面積 (ha)
平成元年度	12.5	1,903	15,216
平成10年度	16.9	2,504	15,356
平成16年度	17.8	2,755	15,508
平成22年度	18.6	2,942	15,841

(2) 花と緑のまちづくり計画策定後の取組(H23～29)

平成22年度に改定した「ふじのくにの魅力を高める花と緑のまちづくり計画」では、「身近にある公園や歩道等の公共的施設の花や緑の量を十分だと思う県民の割合」を基本指標に掲げ、これまでの量に関する取組に加え、ボランティアへの技術研修など、質を高めていく取組も展開してきました。

基本指標の実績値は、この7年の間、50%前後で推移しており、目標の70%には到達できませんでした。県民の2人に1人は花や緑の量を十分だと感じているので、さらに花と緑のまちづくりを推進させていく必要があります。

身近にある公園や歩道等の公共的施設の花や緑の量を十分だと思う県民の割合の推移

年度	割合	年度	割合
H22	53.0%	H26	55.5%
H23	50.6%	H27	54.8%
H24	51.9%	H28	53.6%
H25	48.0%	H29	55.3%
目標		70%	

ア. 緑化資材の支援に関する取組

これまで、緑化率の向上のために、緑化木、球根、種子といった多くの資材を全県に配布してきました。

しかし、量重視で配布された緑化資材は、県外産の種子、球根がほとんどで、地元産の苗を活用するといった地域の個性を生かす仕組みにはなっていませんでした。

今後は、グリーンバンクの支店と位置付けた、市町の緑化まちづくり方針が反映される資材支援の仕組みづくりが必要であり、配布した資材が活用されている実態を把握し、評価していくことが重要です。

緑化資材配布数

年度	S57～H23	H24	H25	H26	H27	H28	累計
緑花木(本)	1,525,548	11,539	9,071	9,047	8,952	8,123	1,572,280
球根(千球)	16,178	1,060	904	812	777	768	20,501
種子(L)	9,267	373	314	233	254	227	10,668



秩父宮記念公園(御殿場市)

イ. 緑化を担う人材育成に関する取組

これまで、地域の緑化ボランティアの技能向上のために、多くの研修会を開催しており、毎年約5千人の人材を育ててきました。既に、地域緑化活動に参加していた方にとっては、高度な知識や技術を学ぶことができ、更なる活動推進につながったことでしょう。しかし、自発的な緑化活動の取組が減っている中では、単に知識を学べるだけでなく、参加者の今後の活躍の場を想定した研修プログラムの拡充と育てた人材を活用していく体制づくりが必要です。



パノラマロード(裾野市)

県及び緑化関係団体が行う緑化活動のための技術研修会参加者数

年度	H24	H25	H26	H27	H28
人	4,543	5,485	4,332	5,123	7,565

ウ. 推進体制に関する取組

これまで、花と緑のまちづくり計画では、「花と緑の魅力あるまちづくり連絡会議」を設置し、緑化施策を推進することとしていましたが、実際には、技術講習会の開催など実践的取組が多く、計画の進捗管理は十分とは言えませんでした。

平成29年8月に設置した「静岡県緑化推進会議」は、本計画を策定するとともに、計画第3章に示す進捗管理を具体的に実行するため、庁内と緑化関連団体を横断する組織であり、全県を挙げて緑化の取組を着実に進める体制を確立することを目指しています。

静岡県緑化推進計画策定の背景

平成2年 静岡県緑化推進計画 策定

- 公共事業と緑化資材配布による緑化率の向上
- ボランティア団体によるイベント時の花での修景

平成3年 高校総体

平成11年 静岡県緑化推進計画 第1回改定

- 公共事業による緑化推進の継続
- イベント時の緑化活動への県民参加

平成11年 全国植樹祭

平成13年 しずおか緑・花・祭

平成15年 NEW!!わかふじ国体

平成16年 浜名湖花博

平成17年 静岡県緑化推進計画 第2回改定

- 公共事業による緑の増加から維持管理への転換
- ボランティア団体を対象とした人材育成の開始

平成23年 ふじのくにの魅力を高める花と緑のまちづくり計画(静岡県緑化推進計画 第3回改定)

- 芝生文化創造プロジェクトを開始



3 社会情勢の変化

(1) 交流人口の拡大

訪日外国人数が全国的に増加している中、本県では平成25年に富士山、平成27年に葦山反射炉が世界遺産に登録され、県内を訪れる観光交流客数は増加しています。

今後は、ラグビーワールドカップ2019の試合の一部や、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技など国際イベントの開催により、国内外から更なる観光交流客の増加が期待されます。

こうした中、世界各地からの訪問客に、本県の美しいまち並み景観をアピールするため、駅前等の地域の玄関口を中心に、花と緑による質の高いおもてなし空間を創造することが求められています。

静岡県内の観光交流客数の推移 (千人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	
観光交流客数	138,081	144,968	147,935	149,342	152,941	
内	宿泊客数	17,903	18,220	18,810	19,876	19,433
	観光レクリエーション客数	120,179	126,748	129,126	129,465	133,508



出典「静岡県観光交流の動向」 小室山公園(伊東市)

(2) 人口減少と高齢者の有業率の上昇

本県では、平成17年をピークに人口減少に転じ、今後は人口減少がますます進む見通しになっています。

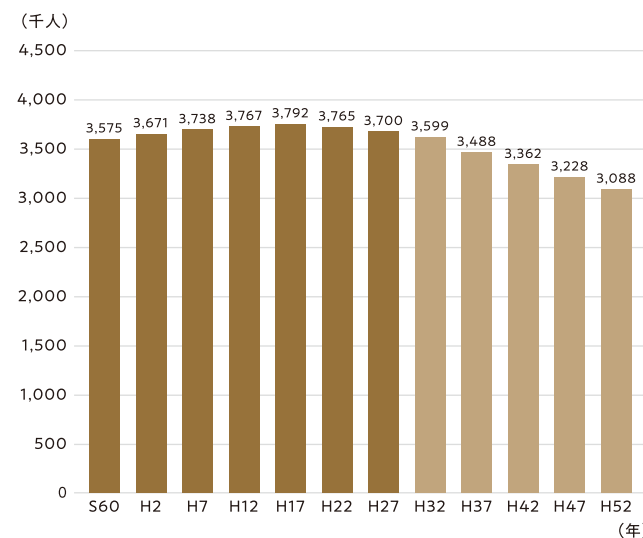
また、社会情勢の変化から、60歳以上の高齢者の有業率は全国的に上昇している中、本県では60代女性の有業率は全国でも上位にあります。

これまでの緑化活動は、地域の緑化ボランティアによって継続されてきましたが、人口減少・高齢者の有業率の上昇を踏まえ、自発的な緑化ボランティアだけに頼っていくことが難しくなっています。

今後は、従来の担い手に加え、新しい価値観を持つ人達への働きかけにより、地域緑化の活動主体の確保を進めることが重要となっています。

静岡県の人口の推移

(～H27) 国勢調査 / (H32～) 静岡県将来人口推計



高齢者の就業率(全国) (%)

年度	H24	H25	H26	H27	
男	60～64歳	71.3	72.2	74.3	75.5
	65～69歳	46.9	48.8	50.5	52.2
	70歳～	19.7	19.7	19.9	20.1
女	60～64歳	44.5	46.0	47.6	49.4
	65～69歳	27.8	29.3	30.5	31.6
	70歳～	8.6	8.5	8.9	9.3

出典「労働力調査結果」(総務省統計局)を加工して作成

60代女性の有業率 (%)

年齢	60～64歳	65～69歳
全国	47.3	29.8
静岡県	54.6	37.8
順位	2	3

出典「就業構造基本調査結果」(総務省統計局)を加工して作成

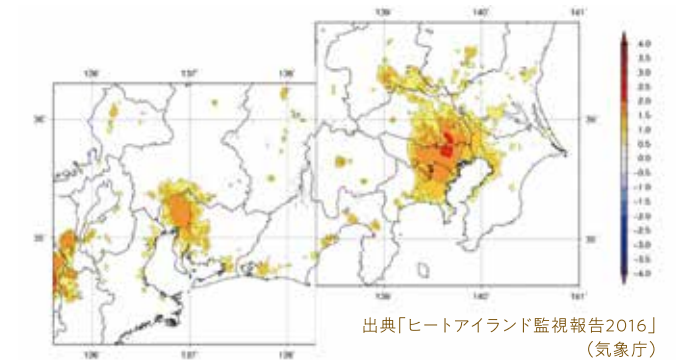
(3) ヒートアイランド現象

都市化の進展による緑の減少や、地表面のコンクリート・アスファルト化等に伴い、全世界的にヒートアイランド現象が進む中、本県においても、都市部等でヒートアイランド現象がみられるようになってきました。

環境問題が深刻化する中、公園緑地などの公共的な緑を確保するだけでなく、建築物のある敷地、建築物の屋上・壁面などでも積極的に緑化を推進することが重要となります。

また、本県においては、平成24年度に全国に先駆けて設置した県芝草研究所の活用により、ヒートアイランドの抑制のほか、スポーツの振興や環境教育に効果のある芝生を全国的に普及し、芝生のメッカを目指していきます。

都市化の影響による平均気温の変化の分布



出典「ヒートアイランド監視報告2016」(気象庁)
(左図)東海地方における8年間(2009-2016年)平均した8月の都市化の影響による平均気温の変化の分布
(右図)関東地方における8年間(2009-2016年)平均した8月の都市化の影響による平均気温の変化の分布

4 計画の位置付け

(1) 位置付け

本計画は、「静岡県総合計画」を基本とし、環境の政策をまとめた「静岡県環境基本計画」、景観形成の政策をまとめた「ふじのくに景観形成計画」と方向性を一にして、その重要な要素となる緑化に関する分野の方針及び方策を定めた「個別計画」です。

(2) 計画期間

本計画の計画期間は、2018年度(平成30年度)から2027年度までの10年間とします。

